

# 野生のチンパンジー

在ギニア日本国大使館

コートジボワールとリベリアとの国境近くに位置する森林ギニア地方のボツソウ村では、1976年から40年以上にわたり、京都大学の主導のもと、日本とギニアを中核とした国際チームが、野生チンパンジーの生態調査及び保護活動を継続しておこなっています。

ボツソウのチンパンジーは、2つの石をそれぞれハンマーと台にしてアブラヤシの種を割るなど様々な文化的行動で世界的に知られています。

京大の先生や学生は地元の森林ガイドと良好な関係を築いており、間近でチンパンジーを観察することができます。ただ、10年ほど前までは20頭近くいたチンパンジーは、現在は7頭にまで減少しています。

また、ボツソウの近くには、ギニアが誇るユネスコ世界自然遺産「ニンバ山麓正自然保護区」があります。

ユネスコやボツソウ環境研究所、地元の村民と連携しながら、チンパンジーの保護と環境保全を目的として、ボツソウとニンバ山麓の森をつなぐ「緑の回廊」と呼ばれる植林活動は1997年から行われています。